

I . 人間科学科目

(1) 人文社会系科学

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

目標

- 1) 選択必修科目では、人文・社会諸分野の多様な科目を履修し、幅広い視野から社会や文化との関わりの中に科学・技術を位置づける。
- 2) 上級科目では、少人数で双方向的な密度の濃い授業形態をとり、人文・社会諸分野のより高度な問題設定に取り組み、さらに視野を拡大する。
- 3) 自ら問題を発見し、それに答えていくという積極的学習態度の基盤を形成する。
- 4) 専門諸学の基礎となる論理的思考力と言語運用能力を養う。

2. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

3. 履修上の注意

- ・人文社会系選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学 I Philosophy I (月曜1限)

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之

1. 概要

●授業の概要

先端医療の急速な発達に伴って、われわれは従来のやり方では十分に扱えない倫理的問題に直面している。人間の生老病死に関わるこのような問題は、専門家のみで解決を任せることはできず、われわれの人間観・死生観に大きな影響を与える可能性も持っている。本講義では、主として遺伝子にまつわる先端医療の倫理的問題を取り上げる。

●授業の目的

先端医療の発達に伴う倫理的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

ヒトゲノム、遺伝子診断、遺伝子治療、自己決定

3. 到達目標

先端医療にまつわる倫理的問題を、自らの問題として捉え、判断を下せることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 ヒトゲノム解析
- 第2回 オーダーメイド医療
- 第3回 デザイナー・ベビー
- 第4回 新しい優生学
- 第5回 遺伝子診断の倫理
- 第6回 知らないでいる権利
- 第7回 遺伝カウンセリング
- 第8回 遺伝子情報のプライバシー
- 第9回 遺伝子特許
- 第10回 遺伝子は誰のものか
- 第11回 遺伝子治療
- 第12回 予測医療
- 第13回 自己決定の問題
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験等により評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学 I Philosophy I (月曜2限)

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之

1. 概要

●授業の概要

西洋哲学の基本的な諸問題を分かりやすく解説し、哲学に特有な問題設定の仕方、その解決への努力を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

懐疑論、自己同一性、功利主義

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 デカルトの懐疑
- 第2回 世界の実在
- 第3回 水槽に浮かぶ脳
- 第4回 現実と夢
- 第5回 経験機械
- 第6回 ヘラクレイトスの川
- 第7回 過程と実在
- 第8回 記憶と人格
- 第9回 自己同一性
- 第10回 自我と観念
- 第11回 功利主義
- 第12回 最大多数の最大幸福
- 第13回 快樂計算
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約50%）およびレポートの結果（50%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy I (金曜2限)

全学科 第2・3年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之

1. 概要

●授業の概要

環境問題は、自然科学、工学から、人文・社会科学までほとんどあらゆる学問分野が関わる。この講義では、環境問題に関わる「思想」を、歴史・文化的側面を含めて取り上げ、今世紀にわれわれが作り上げるべき、環境倫理学の形を探る。

●授業の目的

環境問題には、一義的な「解決」も、「専門家」もある意味では存在しないことを知り、環境問題に対する自分自身の考え方を、情報に惑わされずに作り上げる基礎とする。

2. キーワード

ディープエコロジー、環境リスク、世代間倫理

3. 到達目標

環境問題はメディアなどを通じて、連日、多種多様な情報が流されているが、専門家によるものも含めて、そうした情報を鵜呑みにせず、丹念に検討する通じて、与えられた情報を吟味し自ら考える能力の獲得を目指す。

4. 授業計画

第1～3回 環境思想の歴史

第4回 ディープ・エコロジー

第5～7回 環境リスク論

第8回 『沈黙の春』の意義

第9～11回 ダイオキシン報道をめぐる言説

第12～14回 環境ホルモン問題の再検討

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験等により評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy II (月曜1限)

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之

1. 概要

●授業の概要

二十世紀の哲学は、言語の問題を中心に展開してきたと言っても過言ではない。身近でありながら、謎の多い言語の問題を、言語学や言語哲学、さらには関連する諸科学の成果をふまえて、多面的に探究する。

●授業の目的

言語を用いない人間はいないが、この身近な対象がいかに謎に満ちているかを知ることにより、また自ら言語について考察をすることによって、哲学的思考の入り口に立つことを目指す。

2. キーワード

言語相対主義、生得説、認知言語学

3. 到達目標

言語の問題を素材に、諸説を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 言語学と哲学

第2回 生得説と経験論

第3回 動物の言語

第4回 機械の言語

第5回 脳と言語

第6回 言語哲学の歴史

第7回 さまざまな意味論

第8回 意味の検証説

第9回 意味の使用説

第10回 認知言語学

第11回 カテゴリーの問題

第12回 言語相対主義

第13回 日本語と「主語」の問題

第14回 まとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験等により評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ PhilosophyⅡ (月曜2限)

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之

●授業の概要

先端医療の急速な発達に伴って、われわれは従来のやり方では十分に扱えない倫理的問題に直面している。人間の生老病死に関わるこのような問題は、専門家だけに解決を任せることはできず、われわれの人間観・死生観に大きな影響を与える可能性もっている。本講義では、クローン技術とクローン人間を巡る倫理的問題を取り上げる。

●授業の目的

先端医療の発達に伴う倫理的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

クローン技術、ヒト胚、功利主義、優生思想

3. 到達目標

クローン技術にまつわるさまざまな倫理的問題に対して、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

4. 授業計画

- 第1回 クローン技術
- 第2回 クローン人間
- 第3回 人格の同一性
- 第4回 ヒト胚の地位
- 第5回 パーソン論
- 第6回 功利主義
- 第7回 ベンサム
- 第8回 ミル
- 第9回 最大多数の最大幸福
- 第10回 自己決定の諸問題
- 第11回 ES細胞
- 第12回 臓器クローニング
- 第13回 受精卵の尊厳
- 第14回 優生思想
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約50%)およびレポートの結果(50%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ PhilosophyⅡ (金曜2限)

全学科 第2・3年次 後学期 選択必修 2単位

担当教員 中村雅之(金曜2限)

1. 概要

●授業の概要

環境問題は、自然科学、工学から、人文・社会科学とほとんどあらゆる学問分野が関わる。この講義では、環境問題に関わる「思想」を、歴史・文化的側面を含めて取り上げ、今世紀にわれわれが作り上げるべき、環境倫理学の形を探る。

●授業の目的

環境問題には、一義的な「解決」も、「専門家」もある意味では存在しないことを知り、環境問題に対する自分自身の考え方を、情報に惑わされずに作り上げる基礎とする。

2. キーワード

地球全体主義、<環境>内存在、自己決定権

3. 到達目標

環境問題はメディアなどを通じて、連日、多種多様な情報が流されているが、専門家の者も含めてそうした情報を鵜呑みにせず、丹念に検討する通じて、与えられた情報を吟味し自ら考える能力の獲得を目指す。

4. 授業計画

- 第1回 世代間倫理
- 第2回 権利の拡張
- 第3回 自己決定権
- 第4回 地球全体主義
- 第5回 地球温暖化論
- 第6回 地球温暖化の原因(1)
- 第7回 地球温暖化の原因(2)
- 第8回 地球温暖化への対策(1)
- 第9回 地球温暖化への対策(2)
- 第10回 近代科学と環境思想
- 第11回 環境問題と技術思想
- 第12回 「環境」概念の再検討
- 第13回 <環境>内存在としての人間
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験等により評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

レポートは単位の必須条件なので、必ず提出すること。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

倫理学 I Ethics I (月曜日)

全学科 第2・3年次 前学期 単位区分(選択必修) 2単位
担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。

(関連する学習教育目標:われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アウグスティヌス、告白、神、被造物、人間、罪、キリスト、救い、記憶

3. 到達目標

アウグスティヌス著『告白録』第1巻と第10巻に基づいて、超越的の神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 告白と賛美
- 第2回 神と被造物
- 第3回 人間の罪
- 第4回 三位一体と御言の受肉
- 第5回 かつての自己についての告白
- 第6回 現在の自己についての告白
- 第7回 記憶(1)
- 第8回 記憶(2)
- 第9回 記憶(3)
- 第10回 記憶(4)
- 第11回 情欲
- 第12回 好奇心
- 第13回 傲慢
- 第14回 神と人間との唯一の仲介者キリストによる救い
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学 I Ethics I (金曜日)

全学科 第2・3年次 前学期 単位区分(選択必修) 2単位
担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景(金曜日)

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。

(関連する学習教育目標:われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アリストテレス、ニコマコス倫理学、愛

3. 到達目標

アリストテレス著『ニコマコス倫理学』第1巻から第7巻までの議論の大筋を踏まえた上で、第8巻の愛の議論を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学(1)
- 第2回 倫理学と哲学(2)
- 第3回 『ニコマコス倫理学』についての概説
- 第4回 『ニコマコス倫理学』第1巻から第3巻までの要点
- 第5回 『ニコマコス倫理学』第4巻から第6巻までの要点
- 第6回 『ニコマコス倫理学』第7巻の要点
- 第7回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(1)愛の不可欠性
- 第8回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(2)愛の種類
- 第9回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(3)三種の愛
- 第10回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(4)三種の愛の間の関係
- 第11回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(5)「愛すること」と「愛されること」
- 第12回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(6)愛と正義
- 第13回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(7)国制の種類と家族関係
- 第14回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点(8)血族的愛と夫婦愛
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス/高田三郎訳『ニコマコス倫理学』(上・下)(岩波文庫) 081/I-4-1/604

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ（月曜日）

全学科 第2・3年次 後学期 単位区分（選択必修） 2単位
担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、三位一体、神、御言の受肉、派遣、神の似像、愛の秩序、知恵と知識

3. 到達目標

アウグスティヌス著『三位一体論』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 『三位一体論』について
- 第2回 神の三位一体
- 第3回 御言の受肉
- 第4回 神の形と僕の形
- 第5回 御子と聖霊の派遣（1）
- 第6回 御子と聖霊の派遣（2）
- 第7回 御子と聖霊の派遣（3）
- 第8回 神の似像（1）
- 第9回 神の似像（2）
- 第10回 愛の秩序（1）
- 第11回 愛の秩序（2）
- 第12回 愛の秩序（3）
- 第13回 知恵と知識（1）
- 第14回 知恵と知識（2）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail：m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ EthicsⅡ（金曜日）

全学科 第2・3年次 後学期 単位区分（選択必修） 2単位
担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アリストテレス、ニコマコス倫理学、愛

3. 到達目標

アリストテレス著『ニコマコス倫理学』第1巻から第8巻までの議論の大筋を踏まえた上で、第9巻の愛の議論を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 『ニコマコス倫理学』についての概説
- 第4回 『ニコマコス倫理学』第1巻から第3巻までの要点
- 第5回 『ニコマコス倫理学』第4巻から第6巻までの要点
- 第6回 『ニコマコス倫理学』第7巻の要点
- 第7回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点（1）
- 第8回 『ニコマコス倫理学』第8巻の要点（2）
- 第9回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（1）愛の関係の断絶に関する諸問題
- 第10回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（2）自愛
- 第11回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（3）愛と好意
- 第12回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（4）愛と協和
- 第13回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（5）友
- 第14回 『ニコマコス倫理学』第9巻の要点（6）友
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス／高田三郎訳『ニコマコス倫理学』（上・下）（岩波文庫）081/I-4-1/604

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail：m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

歴史学 I 月曜1限 (History I, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修科目 2単位

水井万里子 (共通講座・人間科学)

1. 概要

●授業の背景

現代日本の食文化の中にあたりまえのように存在する「モノ」(コーヒー)の歴史をたどる。この「モノの歴史学」では、一つの「モノ＝コーヒー」の流通や飲用文化にまつわる歴史を追いながら、国の枠を越えたグローバルな視野で、食文化の発生・伝播、商人、航海、交易ルートなどを検討することができる。歴史的背景として、16世紀にイスラム圏から西洋に広がったコーヒー飲用が、その後ヨーロッパ商人の手を介してアジアへ、やがて長い時間をかけて日本まで伝わってくる過程を考える。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(コーヒー)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。

●授業の位置づけ

エチオピア原産のコーヒー飲用の文化は、アラビア半島、地中海、ヨーロッパ、そしてアジア、アメリカ大陸へと数百年の間に広がっていった。この歴史を追いながら、地球規模の「文化伝播」「世界市場成立」に関する問題を考えていく。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「コーヒー」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解する。コーヒーの流通・伝播を通じてグローバルな視野で16-19世紀の世界の歴史を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠を示しながら自分の考えを表現する。時間内に一定量の歴史に関する文章を記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例コーヒー
- ③理論・個別事例コーヒー
- ④中世の地中海交易イタリア
- ⑤中世の地中海交易オスマン・コーヒールートの確立
- ⑥アラブ世界とコーヒー
- ⑦小テスト
- ⑧大航海時代: 1 ポルトガル・スペイン
- ⑨大航海時代: 2 中核国の推移・小テスト解説
- ⑩大航海時代: 3 オランダ・イギリス
- ⑪世界市場とステープル・ヨーロッパへのコーヒー伝播
- ⑫コーヒーハウス
- ⑬植民地の時代
- ⑭コーヒープランテーション
- ⑮期末試験

5. 評価方法

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。

●成績評価

小テスト	20%	2問(各10点)
期末テスト	80%	3問(25点2問、30点1問)

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』中公新書、1992年。
081 || C-1 || 1095

8. オフィスアワー

研究室(共通教育棟E310)扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

歴史学 I 月曜2限 (History I, the 2nd period, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修科目 2単位

水井万里子 (共通講座・人間科学)

1. 概要

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点を取り入れて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から19世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「茶」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解する。茶の流通・伝播を通じてグローバルな視野で中世から近世の世界の歴史を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげて自分の考えを示す。時間内に一定量の歴史に関する文章を記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例茶
- ③理論・個別事例茶
- ④大航海時代: 1 ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥小テスト
- ⑦大航海時代: 2 中核国の推移・小テスト解説
- ⑧大航海時代: 3 オランダ・イギリスの勃興
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑩ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑪紅茶と砂糖
- ⑫イギリスの紅茶文化
- ⑬大量消費と植民地生産
- ⑭帝国の揺らぎ
- ⑮期末試験

5. 評価方法

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。

●成績評価

小テスト	20%	2問(各10点)
期末テスト	80%	3問(25点2問、30点1問)

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。081 || C-1 || 596

8. オフィスアワー

研究室(共通教育棟E310)扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

歴史学Ⅱ 月曜1限 (History II, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年後期 選択必修科目 2単位
水井万里子 (共通講座・人間科学)

1. 概要

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代(近世)に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっている。年表にあらわることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。授業を通じて、都市という事例からこれらの疑問に答えていく。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学ぶ。その上で、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市で暮らす」ことの歴史的な変化を把握する。個別事例としてイギリスの近世都市をロンドン中心に見ていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業など幅広い視点で考える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「近世」「イギリス」「ロンドン」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②都市という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な都市の歴史事例を学び、当時の都市に生きた人々の日常を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげながら自分の考えを示す。時間内に一定量の歴史に関する文章を記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別都市事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑥ " 2 都市社会構造
- ⑦ " 3 安定と危機
- ⑧ " 4 社会分極化
- ⑨小テスト
- ⑩ " 5 都市文化：演劇
- ⑪小テスト解説 6 都市文化：飲食
- ⑫ " 7 商工業
- ⑬個別都市事例 新興都市 1 パース
- ⑭ " 2 マンチェスター他
- ⑮期末試験

5. 評価方法

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。

●成績評価

小テスト	20%	2問(各10点)
期末テスト	80%	3問(25点2問、30点1問)

6. 履修上の注意

第一回の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』
水書房、1999年。
233.3 || I-1 || b

8. オフィスアワー

研究室(共通教育棟E310)扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

歴史学Ⅱ 月曜2限 (History II, the 2nd period, Monday)

全学科 1年・2年後期 選択必修科目 2単位
水井万里子 (共通講座・人間科学)

1. 概要

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口1万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間に限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという3つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「近世の首都」「ロンドン」「パリ」「江戸」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②都市という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な都市の歴史事例を学び、それぞれの都市に生きた当時の人々の暮らしや価値観などを考察する。それらを比較検討し、共通点と相違点を明らかにする。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。証拠を示しながら論理的に自分の考えを表現する。時間内に一定量の歴史に関する文章を記述する。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④3つの首都の人口比較
- ⑤個別都市事例 江戸 1 成立過程
- ⑥ " 2 都市社会構造
- ⑦ " 3 身分制社会
- ⑧小テスト
- ⑨個別都市事例 バリ 1 成立過程
- ⑩ " 2 都市社会構造
- ⑪小テスト解説 3 宗教戦争
- ⑫個別都市事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑬ " 2 都市社会構造
- ⑭ " 3 社会分極化
- ⑮期末試験

5. 評価方法

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて復習

を兼ねた説明をする。小テスト後に履修者の例答を用いた解説を行い、テスト内容、論述の技術などに関して説明する。

●成績評価

小テスト	20%	2問 (各10点)
期末テスト	80%	3問 (25点2問、30点1問)

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』
刀水書房, 1999年。
233.3 || I-1 || b

8. オフィスアワー

研究室 (共通教育棟 E310) 扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

文学 I Literature I

全学科コース 第1・2年次 前学期 選択必修

○2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

文学的な文章を読むための技術について理解を促す。反覆表現が作家の意識・無意識の読者に向けたサインになっている点を手がかりにする。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点是不変。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

読解 独創 社会

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 夏目漱石「夢十夜」(講義ガイダンス)
- 第2回 森鷗外「蛇」
- 第3回 谷崎潤一郎「刺青」
- 第4回 志賀直哉「范の犯罪」
- 第5回 芥川龍之介「藪の中」
- 第6回 菊池寛「形」
- 第7回 横光利一「蠅」
- 第8回 川端康成「夏の靴」
- 第9回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
- 第10回 中島敦「名人伝」
- 第11回 井伏鱒二「鯉」
- 第12回 太宰治「魚服記」
- 第13回 梶井基次郎「愛撫」
- 第14回 三島由紀夫「海と夕焼」・安部公房「赤い繭」
- 第15回 筆記試験 (期末試験)

5. 評価方法・基準

出席 レポート 期末試験。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席を重視する。中間で期末の筆記試験に向けて、作品を読解したレポートを課す。

7. 教科書・参考書

●教科書

石井和夫・小林修・田中実編『近代文学読本』(双文社出版 1854円)

●参考書

- 1) 森鷗外訳『諸国物語』上・下 (ちくま文庫)
- 2) 丸谷才一『新々百人一首』上・下 (新潮文庫)

文学Ⅰ (金曜2限) Literature I

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 萩原 桂子

1. 概要

●授業の概要

漱石文芸の作品研究を行う。本講義では、主として漱石の初期・中期の作品を取り上げて解説する。まず、小説家漱石の誕生として、『吾輩は猫である』

『坊っちゃん』『草枕』を読み、漱石文芸の形成として、『虞美人草』『坑夫』『夢十夜』を読む。

●授業の目的

漱石文芸の作品研究をとおして、文学に興味と関心をもつようになる。

2. キーワード

日本近代と西洋、漱石文芸、狂気と文芸

3. 到達目標

漱石の作品をとおして、日本近代がかかえていた問題に関心を持ち、時代のなかで変わっていくものと時代のなかで変わらない人間の普遍的なものを理解する。

4. 授業計画

第1回 夏目漱石について(1)

第2回 夏目漱石について(2)

第3回 漱石文芸の源流

第4回 『吾輩は猫である』(1)

第5回 『吾輩は猫である』(2)

第6回 『趣味の遺伝』

第7回 『坊っちゃん』

第8回 『草枕』

第9回 『二百十日』

第10回 『野分』

第11回 『虞美人草』

第12回 『坑夫』

第13回 『夢十夜』

第14回 まとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約80%)および出席状況(約20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

テキストで紹介した漱石の作品については、積極的に読んだうえで講義に出席すること。

7. 教科書・参考書

『増補 夏目漱石の作品研究』

8. オフィスアワー等

ogihara@kwuc.ac.jp (九州女子大学萩原研究室)

文学Ⅱ Literature II

全学科 第1・2年次 後学期 選択必修 2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

異界という概念を軸に人間の想像力の持つ意味をとらえる。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変らない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

異界 想像力 臨界点

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

第1回 講義ガイダンス(印刷資料を用いて作品読解の方法にふれる。)

第2回 永井荷風「狐」

第3回 佐藤春夫「西班牙犬の家」

第4回 芥川龍之介「奉教人の死」

第5回 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」

第6回 梶井基次郎「Kの昇天」

第7回 夢野久作「瓶詰の地獄」

第8回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」

第9回 萩原朔太郎「猫町」

第10回 岡本かの子「川」

第11回 井伏鱒二「へんろう宿」

第12回 中島敦「狐憑」

第13回 川端康成「水月」

第14回 井上靖「補陀落渡海記」

第15回 筆記試験(期末試験)

5. 評価方法・基準

出席 レポート 期末試験。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席を重視する。中間で期末の筆記試験に向けて、作品を読解したレポートを課す。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・高橋広綱編『近代小説[異界]を読む』(双文社出版 2000円)

●参考書

1) トドロフ『幻想文学』(ちくま学芸文庫)

2) サルトル『想像力の問題』(人文書院) 958/S-1/12

文学Ⅱ (金曜2限) Literature II

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 荻原 桂子

1. 概要

●授業の概要

漱石文芸の作品研究を行う。本講義では、主として漱石の中・後期の作品を取り上げて解説する。中期の作品として『三四郎』『それから』『門』を読み、後期の作品として『彼岸過迄』『行人』『心』『道草』『明暗』を読む。

●授業の目的

漱石文芸の作品研究をとおして、文学に興味と関心をもつようになる。

2. キーワード

日本近代と西洋、漱石文芸、狂気と文芸

3. 到達目標

漱石の作品をとおして、日本近代がかかえていた問題に関心を持ち、時代のなかで変わっていくものと時代のなかで変わらない人間の普遍的なものを理解する。

4. 授業計画

第1回 夏目漱石について(1)

第2回 夏目漱石について(2)

第3回 『三四郎』(1)

第4回 『三四郎』(2)

第5回 『それから』

第6回 『門』

第7回 『彼岸過迄』

第8回 『行人』

第9回 『心』(1)

第10回 『心』(2)

第11回 『道草』

第12回 『明暗』

第13回 漱石文芸のゆくえ

第14回 まとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約80%)および出席状況(約20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

テキストで紹介した漱石の作品については、積極的に読んだうえで講義に出席すること。

7. 教科書・参考書

『増補 夏目漱石の作品研究』

8. オフィスアワー等

ogihara@kwuc.ac.jp (九州女子大学荻原研究室)

心理学Ⅰ・Ⅱ (金曜2限) Psychology I・II

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 中溝 幸夫

1. 概要

●授業の概要

現代の心理学は、「脳と心の科学」と言われています。人間が社会的動物である以上、他の個体(他者)の心の理解なしには生きていけません。脳と心についての科学的な知識を学ぶことによって、人間の理解をさらに深めることができるでしょう。本講義では、心理学と脳科学のつながりや心理学の学際性を強調しつつ、現代心理学の主要なトピックを取り上げて講義します。

●授業の目的

実験心理学や認知心理学の成果を中心に、現代心理学の主要なトピックを講義し、脳と心についての理解を深めることを目指します。

2. キーワード

脳と心の科学、学際科学、意識と行動、主観と客観、経験科学／非経験科学

3. 到達目標

現代心理学の基礎知識(現象と理論)および「脳と心」を科学的に理解する方法を理解すること。

4. 授業計画

第1回 講義のオリエンテーション

第2回 科学の歴史と心理学の誕生

第3回 現代心理学の特徴、研究課題、研究方法

第4回 心の生物学的基礎

第5回 感覚・知覚過程(1)

第6回 感覚・知覚過程(2)

第7回 感覚・知覚過程(3)

第8回 学習・記憶過程(1)

第9回 学習・記憶過程(2)

第10回 知能

第11回 言語・思考(1)

第12回 言語・思考(2)

第13回 感情とストレス

第14回 講義のまとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約50%)およびコメントカードの内容評価(約50%)で評価します。

6. 履修上の注意事項

毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらいます。内容は、講義についての質問・感想・意見・関連事項・授業評価などについてです。質問の中で重要なものがあれば、次回の講義でとりあげます。コメントカードの提出は単位認定の必須条件なので、毎回必ず提出してもらいます。

7. 教科書・参考書

授業時にプリントを配布し、パソコン・スライドやビデオを教材として使います。

8. オフィスアワーなど

非常勤講師なのでオフィスアワーはありませんが、脳と心の科学、心理学や心理学の大学院進学について質問があれば、コメントカードやメールを利用してください。

心理学Ⅱ Psychology II

全学科 第1年次 後期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 今村義臣

1. 概要

●授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。人間理解のためには、脳をブラックボックスとして扱うことができない時代になったと考えても過言ではない。脳を知ることは生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

●授業の目的

“意識とは何か”を統一テーマに最近の脳科学の知見を交えながら心理学の諸研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

●授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

3. 到達目標

意識を科学的に理解すること。それは、心理学に最低必要な知識の習得でもある。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 脳と心1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。

第3回 脳と心2

第4回 視覚的意識1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。

第5回 視覚的意識2

第6回 視覚的意識3

第7回 視覚的意識4

第8回 情動と意識1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。

第9回 情動と意識2

第10回 情動と意識3

第11回 情動と意識4

第12回 無意識の再考1 幻肢や共感覚といった現象を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。

第13回 無意識の再考2

第14回 無意識の再考3

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mailアドレス

gishin@std. mii. kurume-u. ac. jp

教育心理学 Educational Psychology

全学科 第1・2年次 前期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 今村義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

教育者を志すものにとっては、教育心理学で得られた理論を学習し、それを現場でどのように活用するかが重要である。ここでは、心理学のみならず脳科学で得られた知見も交え、児童・生徒の指導上の諸問題に関する知識および技術を習得することが目的である。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学びます。

第3回 発達2

第4回 発達3

第5回 学習1 学習の原理と学習指導について学びます。

第6回 学習2

第7回 学習3

第8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学びます。

第9回 知能 知能のメカニズムについて学びます。

第10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学びます。

第11回 人格と適応2

第12回 人格と適応3

第13回 障害児1 障害児の心理と教育について学びます

第14回 障害児2

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mailアドレス

gishin@std. mii. kurume-u. ac. jp

教育学Ⅰ 月曜2限 (Pedagogy I ,the1stperiod,Monday)

全学科 1年・2年前期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

「家族と教育」に焦点化する。普遍的な現象と考えられがちな「家族」であるが、その形態や機能は、時代や文化によって様々に変化する。本講義では、「家族」が有する様々な形態や機能を理解したうえで、現代日本の「家族」を取り巻く諸問題について考察を深められるようにする。

●授業の位置付け

まず、時代および文化による「家族」の形態の多様性について講義する。その上で、現代われわれが当たり前と考えている「家族」が登場する過程について概観する。そして、家族が持つ教育機能とともに、それを取り巻く多様な問題群について考察を深められるようにする。

2. キーワード

近代家族 教育機能 しつけ 性別分業 少子化

3. 到達目標

- ①家族に関して、相対的な思考を獲得できるようにする。
- ②現代家族を取り巻く諸問題について、自らの志向や考えを深められるようにする。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション-家族とは?-
- 2回 家族の歴史(1)-産業革命・市民革命期以前の家族と子ども-
- 3回 家族の歴史(2)-江戸期以前の家族と子ども-
- 4回 近代家族の誕生(1)-産業革命・市民革命と家族の変化-
- 5回 近代家族の誕生(2)-明治期以降の日本の家族-
- 6回 文化人類学・民俗学から見た家族
- 7回 家族と教育(1)-しつけと育児-
- 8回 家族と教育(2)-青年期以降の家族関係-
- 9回 少子化と家族(1)-少子化の原因とは-
- 10回 少子化と家族(2)-少子化対策とは-
- 11回 家族の諸問題(1)-家族の教育機能は衰退しているか-
- 12回 家族の諸問題(2)-家族内虐待-
- 13回 家族の諸問題(3)-性別役割分業と男女共同参画-
- 14回 ポストモダン家族とは?
- 15回 まとめ

5. 評価方法

●授業は講義形式でおこなう。視聴覚教材、配布資料を用いる。

●成績評価

小レポート	30%
期末レポート	70%

6. 教科書・参考文献

●教科書はつかわない。

●参考文献

- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代 新書
- 山田昌弘『パラサイトシングルの時代』ちくま新書
- 赤川 学『子どもが減って何が悪い!』ちくま新書

7. オフィスアワー

研究室扉の掲示をみること。

教育学Ⅱ 月曜2限 (Pedagogy,the2stperiod,Monday)

全学科 1年・2年後期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代日本の最近の教育問題の多様化、深刻化に対応して、その教育現象を把握するために、用いられる教育調査法を講義する。次に教育調査法を使って実際に調査をおこなう。

●授業の位置付け

この授業は演習形式でおこなう。最初に教育調査の概説について講義するが、それに対して、グループで議論し、互いの意見をだす。そして、教育問題の課題を設定する。その課題に対して、仮説をたて、調査対象を決め、調査項目をつくる。さらに調査対象に調査を依頼する。調査票を集め、集計し、分析して、自分たちが立てた仮説を検証する。

2. キーワード

調査課題 仮説 検証 サンプリング 分析方法 リサーチリテラシー

3. 到達目標

- ①教育調査法を理解し、具体的に実践する。
- ②リサーチリテラシーを身につける。
- ③グループで議論する中で、自分の意見をのべ、他人の意見を聞く力を身につける。
- ④計画、立案、実行の能力を伸長する。
- ⑤受身ではなく主体的に講義、演習に参加する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション-グループわけ-
- 2回 現代教育と教育調査(講義)
- 3回 教育調査課題・仮説の立て方(講義)
- 4回 統計調査の方法(講義)
- 5回 事例調査の方法(講義)
- 6回 各グループの調査課題・仮説の検討(演習)
- 7回 各グループの調査課題・仮説の報告・議論(演習)
- 8回 調査項目の作成(演習)
- 9回 プレテスト調査・点検・印刷(演習)
- 10回 調査票の配布(演習)
- 11回 調査票の集計・分析、仮説の検証(演習)
- 12回 報告書の作成(演習)
- 13回 発表および他グループの検討(演習)
- 14回 リサーチリテラシーとは(講義)
- 15回 まとめ

5. 評価方法

基本的には、最後の報告書の発表内容、発表態度、質問に対する答えなどをフロアにいる教師、学生が4段階で評価する。さらに、日常的に個々がどのように参加したかを自己評価してもらい、評価の対象に加える。

6. 履修上の注意事項

受講者は現代の教育問題に対して鋭い問題意識をもっていることが望ましい。

7. 参考文献

岩永雅也著『社会調査の基礎』放送大学出版会

8. オフィスアワー

研究室扉のオフィスアワー掲示を参照のこと。

教育原理 月曜1限 (Principle of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」「幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程」「教育に関する社会的・制度的または経営的な事項」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達にかかわるさまざまなエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて考察すること。
- ③現代の学校教育を取り巻く社会情勢を踏まえ、その課題を探求すること。

●授業の位置付け

自らが有する子ども観や教育観を反省的に捉えられると同時に、志向する教育制度や教育実践などについて表現できるようにすること。特に、工業の教員免許を取得する点に留意し、現代社会における中等教育および職業教育の役割について理解を深められるようにする。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション-「子ども」と「大人」の思想史-
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 乳幼児をめぐる状況と課題-子どもにかかわる諸機関-
- 4回 教育と子育て(1)-ライフサイクルの視点から-
- 5回 教育と子育て(2)-社会化エージェントの視点から-
- 6回 諸外国および日本における学校教育の誕生と発展
- 7回 日本の初等教育の制度的課題
- 8回 日本の中等教育の制度的課題(1)-中学校の場合-
- 9回 日本の中等教育の制度的課題(2)-高等学校の場合-
- 10回 日本の中等教育の制度的課題(3)-職業教育の場合-
- 11回 現代教育の諸問題(1)-不登校といじめ-
- 12回 現代教育の諸問題(2)-児童虐待と少年犯罪-
- 13回 教育の場の再構築(1)-生涯学習時代の到来-
- 14回 教育の場の再構築(2)-情報社会と教育の変革-
- 15回 まとめ

5. 評価方法

●授業は講義形式でおこなう。視聴覚教材、配布資料をもちいる。

●成績評価

小レポート 30%
 期末レポート 70%

6. 教科書・参考文献

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他 『中等教育原理』有斐閣双書
 柴田義松他 『教育原論』学文社

7. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと

教育社会学 月曜1限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育社会学の対象範囲はきわめて広いが、本講義では、教育をひとつの文化現象として捉え、教育によってもたらされる社会構造の再生産や変容、文化変動・社会変動と教育との関連、子ども・若者が日常生活の中でつくり上げる生活様式などについて講義する。

●授業の位置付け

教育は他のあらゆる社会現象と相互規定的な関係を持つ包括的な現象であり、様々な角度から論じることができる。たとえば、スプートニック・ショックのように、テクノロジーと教育が密接に結びついた例もある。本講義では、このような包括的な教育という現象に、文化という視点から迫り、社会や文化に対して教育が果たす役割について理解を深められるようにする。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー ポスト工業化 メディアリテラシー サブカルチャー

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション-教育とは、文化とか?-
- 2回 文化伝達としての教育-育児としつけ-
- 3回 文化的再生産と教育-家族、階層、言語-
- 4回 エスニシティと教育-人種、民族、国家-
- 5回 ジェンダーと教育(1)-子どものジェンダー発達-
- 6回 ジェンダーと教育(2)-学校におけるジェンダー-
- 7回 メディアと教育(1)-ポスト工業化の進展と教育-
- 8回 メディアと教育(2)-子どもを取り巻くメディア世界-
- 9回 メディアと教育(3)-メディアとジェンダー-
- 10回 メディアと教育(4)-メディアリテラシー教育の現在-
- 11回 子ども文化の諸相(1)-現代社会における子ども-
- 12回 子ども文化の諸相(2)-子どもが創る文化と子どものための文化-
- 13回 若者文化の諸相(1)-現代社会における若者-
- 14回 若者文化の諸相(2)-サブカルチャーの世界-
- 15回 まとめ

5. 評価方法

●授業は講義形式で行う。視聴覚教材、配布資料で説明する。

●成績評価

小レポート 30%
 期末レポート 70%

6. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

住田正樹他『教育文化論』放送大学出版会
 小谷 敏『若者論を読む』世界思想社
 小谷 敏『子ども論を読む』世界思想社

7. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

法学Ⅱ Introduction to Japanese Law II

全学科 第1・2年次 後期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観
- 第2回 社会規範の一つとしての法①
- 第3回 社会規範の一つとしての法②-法と道徳
- 第4回 法源
- 第5回 法源
- 第6回 法の種類
- 第7回 法の適用と解釈①
- 第8回 法の適用と解釈②
- 第9回 法と裁判
- 第10回 法と犯罪
- 第11回 法と権利
- 第12回 法と家族
- 第13回 法と個人
- 第14回 法と法学

5. 評価方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 五十嵐 清著 法学入門 [新版] 悠々社
- 2) ポケット六法 有斐閣 又は デイリー六法 三省堂

●参考書

- 1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社
- 2) 三ヶ月 章 著 法学入門 弘文堂
- 3) 山田 晟 著 法学 [新版] 東京大学出版会

8. オフィスアワー等

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

全学科 第1・2年次 前期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならぬ時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は、政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは、政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていくのかということ

理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考える

ことができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①-国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③-裁判所・憲法保障

5. 評価方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門 [第4版] 有斐閣
- 2) ポケット六法 有斐閣 又は デイリー六法 三省堂

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ [第3版] 有斐閣
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ [新版] 有斐閣
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説 [全訂五版] 学陽書房
- 4) 芦部信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店

8. オフィスアワー等

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ Sociology I

1年～3年次生、前期、選択必修、2単位

担当教員 井上寛

1. 概要

●授業の背景Ⅰ

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と知見は重要である。前期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の基礎理論に焦点をおく。

●授業の目的

社会学の基礎理論として、行為（意思決定を含む）、相互作用（ゲーム理論を含む）、集合行為（集団と組織と社会ネットワークの理論を含む）、制度と規範、社会構造、複合社会システム、文化の基礎概念と基礎理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、人間と社会と文化についての論理的な思考と社会学の基礎理論を学ぶ。

2. キーワード

意思決定、ゲーム理論、紛争、集合行為、権力、制度、社会構造、文化、社会的選択

3. 到達目標

基礎概念を理解すること、意思決定の問題を解くことができること、相互作用を含む社会過程の基本モデルを理解できること、集合体と社会階層についての理論を理解できること。

4. 授業計画：

- 第1回 導入（自由と秩序、正義と多様性）
- 第2回 行為・相互作用・社会構造・制度・文化
- 第3回 個体の意思決定
- 第4回 コミュニケーション相互作用
- 第5回 相互作用（ゲーム理論）
- 第6回 相互作用（ゲーム理論）
- 第7回 社会構造とコミュニケーション
- 第8回 集合行為論と資源動員論
- 第9回 組織とネットワーク
- 第10回 資源配分と権力
- 第11回 制度・規範・文化
- 第12回 社会的選択（集合体の意思決定）
- 第13回 複合社会システム
- 第14回 複合社会システム
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験と普段の努力（レポートを含む）を評価する。前者60%、後者40%の割合で、100点満点の60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。

7. 教科書・参考書

授業の最初に、また適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー（面談時間）等は、井上の研究室（共通教育研究棟3階E311）の前の掲示板上に掲示している。

社会学Ⅱ Sociology II

1年～3年次生、前期、選択必修、2単位

担当教員 井上寛

1. 概要

●授業の背景

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と知見は重要である。後期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の応用に焦点をおく。

●授業の目的

前期の社会学の基礎理論の学習をふまえて、現実の社会の主要な側面の社会的な分析を学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、現代の人間行動、社会、そして社会にかんする認識を深め、論理的な思考と社会的な表現の基礎を学ぶ。

2. キーワード

相対的価値喪失、権力、価値意識、逸脱、経営、社会階層、政治

3. 到達目標

現代のマスコミ、親族、社会階層、社会組織、教育、福祉、犯罪、政治、国際関係等についての基礎的な知識を習得し、現代社会についての認識を深める。

4. 授業計画：

- 第1回 導入講義
- 第2回 マスコミ1
- 第3回 マスコミ2
- 第4回 犯罪1
- 第5回 犯罪2
- 第6回 自殺
- 第7回 親族1
- 第8回 親族2
- 第9回 経営組織
- 第10回 社会階層
- 第11回 福祉1
- 第12回 福祉2
- 第13回 政治と社会1
- 第14回 政治と社会2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験と普段の努力（レポートを含む）を評価する。前者60%、後者40%の割合で、100点満点の60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等：

オフィスアワー（面談時間）等は、井上の研究室（共通教育研究棟3階E311）の前の掲示板上に掲示している。

経済学 I Economics I

全学科 第1・2年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の概要

近年、われわれが住んでいる社会の様々な現象を分析する研究分野において経済学概念を導入することが増えている。特に、都市、交通、環境などの分野では費用便益分析、ヘドニック・アプローチやゲーム理論のような経済理論が頻繁に利用されるようになった。これらの経済理論を有効に使用するためには、本授業で取り扱う経済主体の行動理論や市場理論を理解することは不可欠である。

●授業の目的

経済を理解するにあたって最も重要なのは市場メカニズムに対する理解である。本授業ではまず、経済主体の行動理論、特に消費者の行動や生産者の行動に関する理論を学んだ上、その理論に基づいて機能している市場メカニズムについて学ぶ。また、その市場が不完全競争状態である場合どのような問題が発生するか、そして実際われわれが住んでいる社会が抱えている市場構造の問題点について考察する。

2. キーワード

「効用最大化」、「利潤最大化」、「市場メカニズム」、「不完全競争市場」

3. 到達目標

- ・各経済主体の合理的な行動原理を習得する。
- ・各経済主体の行動の結果が市場の形成や既存市場に与える影響について理解する。
- ・様々な経済問題を常に市場メカニズムに基づいて考える。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 市場とは何か？
- 3回 需要と供給
- 4回 消費者の行動 ①
- 5回 消費者の行動 ②
- 6回 消費者の行動 ③
- 7回 生産者の行動 ①
- 8回 生産者の行動 ②
- 9回 市場均衡の理論 ①
- 10回 市場均衡の理論 ②
- 11回 市場失敗と政府
- 12回 市場理論の応用 ①：都市
- 13回 市場理論の応用 ②：環境
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加やレポート、小テスト（50%）と期末試験（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

特になし

7. 教科書・参考書

教科書：竹野秀樹編『経済学概論』勁草書房

8. オフィスアワー等

火曜日14：00～16：00 共通教育研究棟E315

授業に関する質問や意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学 I Economic I

全コース 第2・3年次 前学期 単位区分（選択必修） 2単位

担当教員 成宮哲也

1. 概要

●授業の背景

今日、例えば、年金問題、雇用問題などにみられるように、既存の制度の変更、新たな制度を導入する事例が、多くあります。これらの動きの多くは、社会の構造を改革することにより、現在の経済状況からの脱却を目指しているのですが、同時に多くの分野と関連性があることが少なくありません。特に租税（税金）は重要な関連をもつことが多いです。問題の解決の方向性は、今日、一人一人が問われている状況です。本講義では、このような問題意識のもとで、授業計画を予定しています。

●授業の目的

既存の制度の変更、新たな制度を導入するに際して、私たちは、その変更等が何を意味しているのかを、様々な立場で適切に認識していることが重要です。そうでなければ、適切な意思決定ができないからです。これは制度改革の場合に限られません。そのため本講義では、取り上げた項目を適切に理解するとともに、関連する周辺の領域、多くの場合税金の問題について、認識を深めることを目的とします。

●授業の位置付け

今日、理系の専門家として理系の専門のスキルが求められるのは当然として、同時に文系のマインドが求められることも少なくないと思われます。本講義では、文系の分野として、経済問題を中心に税制（税法）など法制度の一部をカバーすることにします。

2. キーワード

公的年金、国民年金、厚生年金、日本的雇用慣行、所得税、消費税

3. 到達目標

講義で取り上げた項目について、問題の背景まで含めて適切に理解し、そのうえで、自分自身の意見をもつこと。意見を述べる際には、それに至った理由を説明できること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション。
- 第2回 現行の公的年金制度の概要（1）
- 第3回 現行の公的年金制度の概要（2）
- 第4回 年金制度の沿革、制度の考え方などの説明
- 第5回 公的年金制度がかかえる諸問題の検討（1）
- 第6回 公的年金制度がかかえる諸問題の検討（2）
- 第7回 今後の方向性についての検討（税制の問題を含む）
- 第8回 雇用制度の概要（1）
- 第9回 雇用制度の概要（2）
- 第10回 雇用制度と税制との関係についての
- 第11回 退職金制度の概要
- 第12回 退職金と税制について
- 第13回 企業年金の概要
- 第14回 企業年金と税制について
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

例：期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

新聞を読むこと

7. 教科書・参考書

●教科書

講義において指示する

●参考書

1) 講義において指示する

8. オフィスアワー等

経済学Ⅱ Economics II

全学科 第1・2年次 後学期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の概要

最近、国際化や情報化の進展に伴い、経済システムも益々複雑になっており、また経済に関する情報も簡単に入手できるようになった。しかしながら、その情報を深く理解し、それに対し自分なりの判断ができる人は意外と多くないと思われる。マスコミなどを通じて経済専門家や政府関係者が述べている国内外の経済事情を理解するためには本授業で取り扱う諸理論に関する全般的な理解が必要である。

●授業の目的

本講義ではマクロ経済学の標準的なテーマを取扱う。特に、戦後から現在に至るまでの日本経済の足跡を経済政策とその政策の背景にある経済理論を中心に考察することによってマクロ経済学に対する理解を深める。さらに、これをベースに国際経済の基本理論を理解し、日本経済と国際経済の将来について考えてみることが本講義の目的である。

2. キーワード

「経済政策」、「GDP」、「財政・金融」、「為替」、「景気」

3. 到達目標

- ・一国の経済の仕組みを学び、経済活動の水準の決定メカニズムを理解する。
- ・現在われわれが直面している経済問題を分析し、問題解決の糸口を見出す力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 戦後からの日本経済の歩み ①
- 3回 戦後からの日本経済の歩み ②
- 4回 国民経済計算 ①
- 5回 国民経済計算 ②
- 6回 財市場 ①
- 7回 財市場 ②
- 8回 貨幣市場
- 9回 IS-LM分析と経済政策 ①
- 10回 IS-LM分析と経済政策 ②
- 11回 インフレとデフレ
- 12回 国際経済 ①
- 13回 国際経済 ②
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加やレポート、小テスト（50%）と期末試験（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

特になし

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

火曜日14：00～16：00 共通教育研究棟E315

授業に関する質問や意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ Economic II

全コース 第2・3年次 後学期 単位区分（選択必修） 2単位

担当教員 成宮哲也

1. 概要

●授業の背景

今日、例えば、持株会社の解禁、国と地方との関係の見直し、税制改正などにみられるように、既存の制度の変更、新たな制度を導入する事例が、多くあります。これらの動きの多くは、社会の構造を改革することにより、現在の経済状況からの脱却を目指しているのですが、同時に多くの分野と関連性があることが少なくありません。特に租税（税金）は重要な関連をもつことが多いです。また、税制改正も多くの報道にみられるようにそれ自体たいへん大きな問題です。問題の解決の方向性は、今日、一人一人が問われている状況です。本講義では、このような問題意識のもとで、授業計画を予定しています。

●授業の目的

既存の制度の変更、新たな制度を導入するに際して、私たちは、その変更等が何を意味しているのかを、様々な立場で適切に認識していることが重要です。そうでなければ、適切な意思決定ができないからです。これは制度改革の場合に限られません。そのため本講義では、取り上げた項目を適切に理解するとともに、関連する周辺の領域、多くの場合税金の問題について、認識を深めることを目的とします。

●授業の位置付け

今日、理系の専門家として理系の専門のスキルが求められるのは当然として、同時に文系のマインドが求められることも少なくないと思われます。本講義では、文系の分野として、制度的なインフラとしての会社に関する法制度や税制を中心として、広く経済問題をカバーすることにします。

2. キーワード

持株会社、会社法、法人税、所得税、消費税

3. 到達目標

講義で取り上げた項目について、問題の背景まで含めて適切に理解し、そのうえで、自分自身の意見をもつこと。意見を述べる際には、それに至った理由を説明できること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション。
- 第2回 株式会社の概要
- 第3回 株式会社の設立等について
- 第4回 株式について
- 第5回 持株会社について
- 第6回 株式会社以外の組織形態（1）
- 第7回 株式会社以外の組織形態（2）
- 第8回 所得税について（1）
- 第9回 所得税について（2）
- 第10回 法人税について
- 第11回 消費税について
- 第12回 地方税について
- 第13回 税制改正の方向性について（1）
- 第14回 税制改正の方向性について（2）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

新聞を読むこと

7. 教科書・参考書

●教科書

講義において指示する

●参考書

1) 講義において指示する

8. オフィスアワー等

政治学Ⅰ Political Science I

第1・2年次 前学期 選択必修 2単位
担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは"社会人"にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになることが目標である。特に、(切り離してイメージされがちな)日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明。
第2回 ことばと政治 シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む。
第3回 ことばと政治 「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む。
第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（1）。
第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（2）。
第7回 政官関係・公益法人論など。
第8回 戦争と政治（1）。
第9回 戦争と政治（2）。
第10回 従来の講義の補足と展開。
第11回 ナショナリズム論（1）。
第12回 ナショナリズム論（2）。
第13回 市民的实践とNGO（1）。
第14回 市民的实践とNGO（2）。
第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science II

第1・2年次 後学期 選択必修 2単位
担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料=プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義=筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。

政治学は民主主義国の市民あるいは"社会人"にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義。

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになることが目標である。特に、(切り離してイメージされがちな)日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明。
第2回 教育と政治、民主主義との関連など。
第3回 教育と政治、ケース・スタディ（1）。
第4回 教育と政治、ケース・スタディ（2）。
第5回 教育と政治、ケース・スタディ（3）。
第6回 補足と展開
第7回 開発と補助金政治。
第8回 開発と地方自治。
第9回 戦争責任論。
第10回 開発をめぐる国際政治（1）。
第11回 開発をめぐる国際政治（2）。
第12回 軍事化と平和研究（1）。
第13回 軍事化と平和研究（2）。
第14回 開発教育論など。
第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究 I Regional Studies I

月曜 1・2 時間目用

全学科 第 1・2 年次 前学期 単位区分 選択必修 2 単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国については均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

相対主義的に考えるという disposition を身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 タイの現在1 タイの歌謡界全般に関するビデオ・パート1
- 第5回 親族の解釈学1—親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2—普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3—相対的な解釈
- 第8回 タイの現在2 タイのアイドルについてのビデオ
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 タイの現在3 タイの歌謡界全般に関するビデオ・パート2
- 第13回 世界観パート1—構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2—構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解説法）
- 第15回試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press.
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究 I Regional Studies I (金曜 2 限)

全学科 第 1・2 年次 前学期 単位区分 選択必修 2 単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国については均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジ

3. 到達目標

相対主義的に考えるという disposition を身につけること。フィールド・ワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 フィールド・ワークの方法論1：理論編
- 第2回 フィールド・ワークの方法論2：実践編
- 第3回 ニューギニアのダリビ族の民族誌：アナロジックな親族
- 第4回 ニューギニアのダリビ族の民族誌（続き）
- 第5回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌：アナロジックなジェンダー
- 第6回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌（続き）
- 第7回 ニューギニアの person の概念と agent の概念：
市場交換システムと贈与交換システム
- 第8回 タイの現在1 タイの歌謡界全般についてのビデオ・パート1
- 第9回 東南アジアの民族誌：イントロダクション
- 第10回 ビルマ／カチン・グムサ社会：概観
- 第11回 ビルマ／カチン・グムサ社会：構造的範疇
- 第12回 タイの現在2 タイの歌謡界全般に関するビデオ・パート2
- 第13回 東北タイ：生活世界分類と民族生物分類学 1
- 第14回 東北タイ：生活分類と民族生物分類学2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press., 389/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂。
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 389/L-8

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional StudiesⅡ (月曜1、2限)

全学科 第1・2年次 前学期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前学期とは異なり、後学期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

相対主義的に考える disposition を身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 ジェンダー パート1：定義と歴史的背景及びフェミニズムとの関係
第2回 ジェンダー パート2：その多様性と解釈
第3回 ジェンダー パート3：ポスト・モダンのジェンダー論
第4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ上映
第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
第8回 タイの現在4 タイの音楽についてのビデオ（コンサート編）
第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰—祖先の崇りを巡って—
第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界—隠喩のフォース—
第12回 Globalism：World Standardの席卷—アメリカン・ポップスの実力に関するビデオ
第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念—劇場国家論
第14回 東南アジアの伝統的国家概念—銀河政体論
第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。6.0点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah. S. J., 1985. Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional StudiesⅡ (金曜2限)

全学科 第1・2年次 前学期 単位区分 選択必修 2単位
担当教員 成末 繁郎（金曜2限）

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れることになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前学期とは異なり、後学期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

3. 到達目標

相対主義的に考える disposition を身につけること。フィールドワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
第2回 呪術論基礎（1）—表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
第3回 呪術論基礎（2）—呪術の効果を巡って。
第4回 グローバリズムを考える—タイのポップ・ミュージック。
第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈—象徴効果—北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
第6回 事例検討2：物語生成装置論—アフリカのザンデ族の呪術を中心に。因果関係とは何か。
第7回 事例検討3：言語行為論—アフリカのザンデ族の呪術と薬学。アナロジーの力。
第8回 タイの現在4 タイの音楽についてのビデオ（コンサート編）
第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析—ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病的治療
第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
第12回 東南アジアの国家論①—19世紀パリの都市国家：劇場国家論。
第13回 東南アジアの国家論②—タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論
第14回 総括
第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（95%）および出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah. S. J., 1985. Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective. Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

西洋社会史 I・II History of European Society (金曜3限)

全学科2年・3年 前期および後期
 選択科目 2単位
 担当教員 水井万里子 (共通講座・人間科学)

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いつながりながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック (例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など) を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2 (以下PR1・PR2) およびファイナルレポート (以下FR) の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①調査：インターネットで文献情報を検索し、必要があれば外部図書館を利用する。複数の資料を収集し、多面的に知識を得る。
 - ②分析：収集した資料の情報を整理・分析する。これをもとにレポートの構成を考える。目次 (章・節のかたち) にして表現する。
 - ③プレゼンテーション：参考文献リスト、図表、その他の工夫
 - ④オリジナリティ：独自の文体 (資料の丸写し不可)、着目点、議論展開
 - ⑤プログレス (PR2とFRのみ)：PR1以降の進歩
- <個別発表>
- ①発表：簡潔にわかりやすく他履修生に自分のテーマを伝える質問に的確に答える。
 - ②質疑：発表をよく聞き、的確な質問を考える。わかりやすく質問する。

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド (文献検索について)
- ③調査ガイド (公共図書館と他大学図書館利用について)
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表
- ⑭ファイナルレポート提出

5. 評価方法

プログレス・レポート1	25%	(上記レポート目標①から④各25%)
プログレス・レポート2	30%	(①から⑤各20%)
ファイナル・レポート	35%	(①から⑤各20%)
発表質疑	10%	

*総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。
 502/B-7
 (担当教員が管理し、授業中に閲覧、必要部分は複写する)

8. オフィスアワー

研究室 (共通教育棟E310) 扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。- 21 -

日本政治論 I Japanese Politics, Past and Present I

第2・3・4年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本 (の抜粋) や資料などを精読して学問的に (ジャーナリストイックに、ではなく) 学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国 (史) 的な視野におちらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会話をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治 (制度) 論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基づいて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション。
- 第2回 人間性と政治 (権力分立の問題など)。
- 第3回 自由・人権観。
- 第4回 戦後社会と管理化 (1)。
- 第5回 戦後社会と管理化 (2)。
- 第6回 戦後社会と管理化 (3)。
- 第7回 東北アジアと日本 (1)。
- 第8回 東北アジアと日本 (2)。
- 第9回 東北アジアと日本 (3)。
- 第10回 補足と展開。
- 第11回 琉球・沖縄と日本 (1)。
- 第12回 琉球・沖縄と日本 (2)。
- 第13回 宗教と政治 (1)。
- 第14回 宗教と政治 (2)。
- 第15回 戦争・戦後責任論。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論 (80%)・レポート (20%) で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力 (知識、読解・思考、表現等) の両方が期待される。但し、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習 (自ら補習) することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

●教科書 プリントを配布する他、相談して決定 (複数)。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present Ⅱ

第2・3・4年次 後学期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらぬように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会話をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基いて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション。
- 第2回 自由主義論（1）。
- 第3回 自由主義論（2）。
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）。
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）。
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）。
- 第7回 市民社会論（1）。
- 第8回 市民社会論（2）。
- 第9回 市民社会論（3）。
- 第10回 補足と展開。
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）。
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）。
- 第13回 厚生行政をめぐる政治（3）。
- 第14回 政治的リアリズム。
- 第15回 日本の戦後政治史をめぐって。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。但し、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書 プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

社会システム論 Social Systems Theories

建設社会工学科、2～4年、後期、選択、2単位

担当教員 井上寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会システム構造と過程にかんする諸理論の応用を特に政治社会学に焦点をおいて学ぶ。

●授業の位置づけ

政治社会学の諸理論とその応用を学ぶことを通して、現代社会にかんする視野を広げ、あわせて社会科学的な認識能力を修得することをめざす。

2. キーワード

産業化、都市化、民主化、都市化、社会階層、社会組織、権力、国家、社会的選択、象徴、文化

3. 到達目標

政治社会学の基礎概念と基礎理論を学び、政治現象についての異なる見方・議論を理解し、現象を評価する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 普遍的な権力現象
- 第2回 社会と国家
- 第3回 社会階層
- 第4回 利害と組織
- 第5回 選挙と政党
- 第6回 投票行動
- 第7回 議会と権力
- 第8回 官僚制
- 第9回 司法と権力
- 第10回 象徴・文化と政治
- 第11回 社会的選択（1）
- 第12回 国際関係
- 第13回 正義・公正・公平
- 第14回 社会的選択（2）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（20%）、授業中の積極性（30%）、レポート（50%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

人文社会系選択必修科目の履修を終えているかその見込みがあることが望ましい。学習態度としては、よく聞き、よく読み、よく考え、よく発言し、よく書く努力をすることが大切である。なお授業では1、2回のプレゼンテーションが要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー（面談時間）等は、井上の研究室（共通教育研究棟3階E311）の前の掲示板に掲示している。